



同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎048-977-5441 FAX048-977-2031
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp
URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/

第一回まほろばの会開催!

「40才になったら学校へ行こう」というキャッチフレーズのもと開催される「ホームカミングデー」にならない、20才になった卒業生の集いが企画され、石井前校長先生のお話の中によく登場した言葉を引用し、「まほろばの会」と命名されました。

25期生学年主任 加倉井 憲一

平成21年2月22日第一回の「まほろばの会」が開かれることになり、久しぶりに獨協埼玉に足を運びました。会場の食堂にはたくさん卒業生が集まり、2年ぶりに会う卒業生の成長ぶりに驚きました。振り返ると獨協埼玉中学校第一回卒業生と外進生の組み合わせだった初めての入学式が思い出されます。リラククスした中学からの内進生、緊張感一杯の外進生、そこから始まった学年は今までの獨協埼玉にはなかった激動の3年間でした。乱暴狼藉の1年生、自由闊達の2年生、受験モードだった3年生、そして体育祭のがんばりは見事でした。新しい形の獨協埼玉の始まりを感じました。しかし、教員としては6年分の長さを感じた3年間でした。

「まほろばの会」で集まった20才になった卒業生と歓談し、皆がそれぞれの姿形だけでなく考え、会話の内容が大人になっていくことを感じました。そして、多くの卒業生が母校に集まってきてくれて大変うれしく思いました。石井元校長が式の度に話されていた「まほろば」に本校が本場になったのでしょうか。

まほろばの会を実施するにあたり尽力をいただき、5月25日に急に天国に旅立たれた河端先生のうれしそうな顔が未だ

に忘れられません。卒業生の皆さん、「まほろば獨協埼玉」に集まって昔のこと、将来のこと語り合ってください。

金本 幸美 (25期生)

私達25期生は中高一貫となってからの1期生ということで、成人式を迎えたこともあり外進生と共にまほろばの会を開催しました。この会は故河端教頭のお力添えを受けながら実現に至りました。久しぶりの同級生との再会を懐かしみながら思い出話に花を咲かせ、楽しいひと時を過ごすことができました。就職して社会に出ていく人、これから就職活動が始まる人、様々な立場の人がいる中で獨協生であったことを誇りに思い、個人個人頑張っていることと考えることができ、時間を過ごした。中学校創設時のお話や入学時のお話を聞き、卒業したからこそ聞けるお話は皆興味深く、懐かしく聞いていました。

3年間、6年間を過ごした獨協埼玉はやはり私達にとって温かい場所だと実感しました。次に大々的に集まれるのはホームカミングデーということで楽しみに待たまらません。それぞれがそれぞれの道で活躍し、また笑顔で会えることを心から楽しみにしています。

最後になりましたが、まほろばの会実現に向けご協力して下さいました先生方、25期生の皆さん本当にありがとうございます。



26期生「どつたま」に集合!

26期生は平成22年、成人の集いとして「まほろばの会」を行います。2008年3月、26期生は獨協埼玉高等学校を卒業した後、新たな道をそれぞれの将来へ向け、歩いています。人生の大きな節目として、また「どつたま」に少し顔を出してみませんか。多くの先生方に協力していただいで、「まほろばの会」は昨年続き、「どつたま」で開催します。同窓会としての集まりは総会など毎年ありますが、26期生のみ集まりはこれが初めてです。次に26期生の集まりが行われるのは、20年後の「ホームカミングデー」になります。「ホームカミングデー」は、40歳になったら学校へ行こうという企画ですが、お子様連れでも大丈夫と案内がきますよ。すごく遠い未来のように感じますが、獨協埼玉高等学校に入学したのは、もう5年も前のことです。15歳だったあのとき、20歳は遠い未来でした。15歳の自分に、20歳の自分に、「どつたま」へ会いに来ませんか。詳細は後日お知らせしますが、2月を予定しています。多くのご参加、お待ちしております。

武内 保香 / 吉田 美果
山田 敬二郎 / 大石 さやか
正岡 正樹 / 岡野 沙也花
夢川 彩子 / 勝股 修平

(26期)

自分磨き

同窓会長 玉山 栄一



今の世の中、すべてが飽和状態といっても過言ではありません。物もお店も人も。

言葉に「高級」と「一流」というのがあります。実は、似て

いるようでまったく異なる言葉です。お店で例えるなら、高級店は資本があれば、いくらでも開店できます。しかし、一流店となると、銘打って開店するのは不可能です。人にも同じ事が言えるのではないのでしょうか。もともと生まれながらの一流人はいない。人の立ち居振る舞いを見、話に耳を傾けながら、学習できる人、つまり「自分で学んで考える」人が一流人ではないでしょうか。

武道の世界に、「守・破・離」という言葉があります。最初は師の教えを守る。次に破る。最後は離れる。しかし、日本では育成信仰みたいなものが根強く、人は教わっていると安心する。「守」で終わっている気がします。その点から言うと、獨協埼玉では、ずっと教わる側にいるのではなくて、「自分で学んで考える」という事を自然と身に付けさせていた気がします。

さあ、この激動の時代でも、楽しく、笑って生きていきましょう。しかし、それには、自分自身を磨いて、「一流」と呼ばれる人にならなくてはいけません。人は楽しいから笑うのではなくて、自分が笑うから楽しい。これからはそう思えるような人を送ってほしいものです。同窓会からも楽しさと笑いを提供できたらと思っています。

悲しみを乗り越えて

校長 柳町 道廣



昨年四月に校長に就任し、一年間その重責を担って参りましたが、卒業生のためにも母校の健全な発展は校長にとつて言い訳なしの責務と考え、

一層努力して参りますのでご支援下さるようお願いいたします。

昨年の本紙面では五人の名物教員のご退職を報告しましたが、今年も新たに四人の先生方本校を去って行かれました。特に、既にご存じと思いますが、一期生から全ての生徒に親しまれてこの三月をもってお辞めになった前副校長河端行雄先生の訃報は獨協学園にとっての大きな悲しみであり、個人的にも長い間の友人であり、恩人でもあっただけに、本当に残念でなりません。この上は、悲しみを乗り越えて、故人がこよなく愛した獨協精神をしっかり継承していくことこそ、その恩に報いる責務であると改めて決意しております。他に英語科の松本・板橋両先生、理科の中野先生も三月で退職なさいました。本当に長い間ありがとうございました。私もこの五月で還暦を迎えましたが、今年度のホームカミングデーは本校に赴任した年に初めて担任を持った六期生の番とのこと。初心を取り戻すためにもなつかしい顔に早く会いたい思いで一杯です。

流れ行く時

大山 勉



同窓会員の皆さんお変わりございませんか。母校も来年創立三十周年を迎えるとともに草創期から教鞭を執られていた先生方のご退任が続き、

随分様変わりしました。三十年という時の流れは、我が身の来し方行く末をしみじみと思いやるに充分です。同じ釜の飯を食べた仲間が二人と職を辞されるのはなかなかさびしいもの。中でも去る5月25日に急逝された河端先生との永の別れはことのほか悲しく、人の世のかなさを痛感するばかりです。先生とは創立二年目に同期として奉職し、気が置けない同志としてその時々を夢中で駆け抜けて来ました。我が子のように生徒を可愛がり、誠実で粘り強く、時には潔く、その謙虚な人柄と「先生サー」と呼びかけるあの独特のイントネーションと笑顔は忘れられません。長く重職にあり、何より人の心を大切にしながら、組織の円滑な運営に腐心なさっていました。職を離れ、これからは自分自身のために自由に時間を使えるという矢先、無念の思いを禁じ得ません。遅かれ早かれすべての人は還っていくとは言え、親しい人との別れはとて心萎えることです。「棺を蓋いて事定まる」の言葉通り、先生の諸々の業績は母校の歴史の中にしっかりと刻まれて行くでしょう。心からご冥福をお祈り致します。

第十二回同窓会総会・懇親会開催

夏を感じさせる暑さの中、6月27日(土)に第12回同窓会・懇親会開催が本校小ホールにて開催されました。総会では20年度の報告と21年度の計画が議案に上がり、そのひとつとして一部会則の変更があり、承認されました。内容は以下の通りです。

第2章 第5条 役員

1. 会長1名、副会長1名、名誉会長1名、尚、名誉会長は学校長とする

第2章 第12条 幹事

1. 各年度卒業生は、各1名の幹事を選出する。↓1名以上

第4章 第19条 会計監査

2. 会計監査は、本校の会計を監査し、その結果を幹事会に報告する。↓その結果を総会に報告する。

第5章 第20条 会則の変更

3. 会則の変更は、幹事会の出席数の3分の2以上の同意を必要とする。↓総会の出席数の3分の2以上の同意を必要とする。

総会で承認されましたのでこれらの会則は6月27日より施行されています。

総会後の懇親会では古くは1期生から、つい1週間前に教育実習を本校で行った実習生、また3月卒業したばかりの27期生までが集まり、世代を越えた話題に大いに盛り上がっていました。

年に一度の総会・懇親会。ここ数年でいろいろな設備が増え、獨協埼玉も昔と比べて様変わりしました。是非同級生を誘って懐かしい母校へ遊びにいらしてください。卒業期を越えて母校で楽しいひと時を過ごしてみませんか。来年も開催されますので奮ってご参加ください。

決算・予算報告

平成20年度決算書 H20年4月1日～H21年3月31日

収入の部		支出の部	
★前年度繰越金	19,401,203	★次年度繰越金	20,444,122
★終身会費卒業生	2,970,000	★総会費	582,721
★終身会費既卒生	180,000	★会報費	1,277,152
★利息	12,077	★幹事会費	20,000
★懇親会収入	110,000	★慶弔費(花束)	12,600
		★事務費	1,960
		★卒業証書フォルダー	334,725
合計	22,673,280	合計	22,673,280

平成21年度予算(案)

収入の部		支出の部	
★27期生 終身会費	3,300,000	★総会費	582,721
★H20年度より繰越金	20,444,122	★会報費	1,277,152
★預金利息	2,500	★幹事会費	30,000
★懇親会収入	60,000	★慶弔費(花束)	12,600
		★卒業アルバム保管用	13,800
		★企画費	500,000
		★卒業証書入れ	400,000
		★予備費	20,990,349
合計	23,806,622	合計	23,806,622

「部活動紹介」

先輩方に感謝!

なつかしきあの頃 第10回
ラグビー部



ラグビー部について紹介させていただきます。我が獨協埼玉高校ラグビー部は昭和55年の開校とともに創部され、顧問の依田先生のもとで活動が続けられてきました。その後、5期のOBで国語科の小平先生が引き継ぎ、現在は13期OBの私、櫻井が加わり小平先生とともにラグビー部の顧問をさせていただきます。

ラグビー部の顧問をさせていただきます。依田先生が築き上げた、それがOB二人が引き



継いでいるという状況です。

ラグビー部には過去に早稲田や慶応で活躍された先輩をはじめ、他の大学、社会人でもラグビーを続けている

OBが多数おります。そういった方々を中心に、獨協埼玉ラグビー部を愛して下さっている数多くのOBたちの力を借りながら、現在も活動をさせていただいています。実際に今でも多くのOBがグランドに足を運んでくださり、2月のOB戦や昔平の合宿の際には特に多くのOBに参加していただいています。

そのような多くのOBに支えられ、現役員達も日々一所懸命に活動しております。先日行われた大会では創部初の東部地区優勝を成し遂げました。創部29年目にして初の東部地区での優勝となり現役員達も大変喜んでおりました。今後目標である県大会ベスト8を目指し、日々精進していきたいと考えております。この先も多くのOB・関係者に支えていただきながら、愛される獨協埼玉ラグビー部をつくっていかれたらと考えております。

(顧問 櫻井 広仁)

河端行雄先生を 偲んで

石井 征次

河端先生の葬儀にはたくさんの方の同窓生が弔問に訪れてくれました。心から感謝しております。

そうした卒業生たちの姿を見て、芝浦工業大学の名誉教授であられる河端先生のご長兄が「これは獨協埼玉という学校の文化です。校風です。行雄も本当にいい学校でお世話になっていたんですね」とおっしゃって下さいました。

その言葉に、深い悲しみの中ではありませんでしたが、背筋が伸びるような思いをいたしました。

河端先生との思い出を語ればきりがありませんが、ここでは、告別式での私の弔辞を載せていただきます。

これを読みながらそれぞれがそれぞれの記憶の中で、在りし日の河端先生を偲んでいただければ幸いです。

「弔辞」

河端先生、去る二十五日、あなたの奥様からあなたの急逝の知らせを聞き、しばらく茫然自失してしまいました。

あなたが今春、私が昨春、それぞれが忙しい日常を去って、もう以前のようになくさんは飲めなくなってしまうましたが、大好きな日本酒を傾けたりしながら、ゆっくりと語り合うときを楽しみにしておりましたのに、無常迅速は世の習いとは申しますものの、あなたのご逝去の知らせは、いかにも辛く残念でなりません。

あなたとは、三十年以上の長い間、机を並べ、議論し、語り、酒席を共に



2009年3月31日、テニスコートにて

してきました。特に、この十五年間は、私が教頭のときはあなたが副教頭、私が校長になってからはあなたが教頭と、何事にも短兵急にはやりがちな私の手綱を締める役割を誠実に果たしてくださいました。さぞ、ご苦労が多かったことといたしながら深い感謝とお詫びを申し上げます。

獨協埼玉中学校を立ち上げ、第二体育館を建設するといった私どもにとっては大きな仕事をつつがなくやり遂げられたのも、あなたがいらしてくれただおかげとこれも感謝しております。

文字通り、あなたは私にとって、苦楽をともししてきた大切な友でした。昨日の通夜には、同僚だった教職員はもとより、あなたの教え子たちが多数参加してくれて、遺影の前で涙を流しておりました。

あなた方ご夫妻には子供はいらっしゃいませんでしたが、あなた方にとって獨協埼玉とその生徒たち、なかんずくテニス部を中心とした生徒たちがあなたの子供だったのではないかと思います。

大きな大会の前など、炎天下、汗みどろになりながら黙々とコート整備に精を出されていた姿が今も目に浮かびます。直腸癌の手術をして、学校に戻っていくばくもなく、以前と変わらず、黙々とコート整備に向かうあなたの姿に頭を垂れるようであったことが昨日のこのように思い出されます。

定期テストの前には、教頭室にテニス部の赤点候補者を集めてよく勉強させていました。その効果の程は時によって様々でしたが、生徒たちにとってはなんとも懐かしい思い出になっていることでしょう。

とにかく生徒が好きで、生徒のためには労を惜しまない教師でした。昨日、今日と弔問に訪れてくれた教え子たちの涙があなたがどんな教師であったかということ雄弁に物語っています。

そんなあなたと長く同僚として仕事のできたことを、そして何よりもそのような教師であったあなたを心から誇りに思います。

生きている者が死せる者を記憶し、語り続ける限り、死者は死なずと申します。

私もあなたを忘れません。河端先生、さよーなら。ゆっくりとお休み下さい。

平成二十一年五月二十九日

友人 石井 征次

尾花 信行

あんなにタフでちょっとやそつとではへこたれない先生の突然の訃報は、思ってもいなかっただけに、本当に衝撃が大きく残念で仕方ありません。まだまだ相談したいこともあるし、ずっとずっとお世話になりっぱなしで全く恩返しもできていないのに。

おそらく獨協埼玉の多くの教員・生徒がそうであったように、自分も先生には大変お世話になってきました。書類の書き方や学校の仕組みを教わったり、授業や部活の悩みを聞いてもらったり。先生はグルメでしたから、美味しい物も沢山ごちそうになりました。食べたり飲んだりしながら先生と話すことで気持ちがつつと楽になり、明日への力がわいてきたものです。

言うまでもなく、先生の獨協埼玉への貢献度は多大でありました。山のよりに積まれた書類、メモと挟んだプリントで5・6センチにもふくらんだ何冊ものノート、なぜか手作業への依存度が高い様々なデータ、そして何よりも先生の頭の中にある河端コンピュータ



左から河端先生、尾花先生、柳町先生

ター。そういった物の中からも必要とされる答えや新しい発想が当たり前のように出てきて、獨協埼玉は発展し支えられてきました。そう、先生からいただいた河端ファイルはずっと大切にしていきたいです。

今も、教頭室のドアを開けたら煙草の煙の中にあの笑顔が見えるような気がします。あの「センスさあー」、「ビール飲もうか」って言う声が聞こえてきそうな気がします。

先生は休みなく働き過ぎたから、どうかゆっくり休んでください。先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

酒井 直樹

5月25日の夕方、校長先生から河端先生が亡くなったと連絡がありました。あまりにもそれは突然で今でも信じられないでいます。ついその一ヶ月前、春の地区大会の結果を電話で報告したばかりでした。

河端先生とは学生の頃はテニス部の顧問として、また獨協埼玉に勤めてからはテニス部の顧問の先輩として、そして一教員として大変お世話になりました。

先生は獨協埼玉のみならず地区や埼玉県全体のテニス普及にもご尽力されていきました。私が顧問になった頃、他校のどの先生からも必ず「河端先生には昔から大変お世話になってます。」

と言われ、改めてその存在の大きさを知ったことを今でも覚えています。

そして私が学生の頃から、いろいろなことを教えていただきました。



時には厳しく、そして時には優しく生徒に接し、いつでも頼りになる存在でありました。大会出場者を決めるときなど上手いだけで決めるだけでなく、一生懸命毎日参加している生徒を出場させるなど生徒のやる気を第一に考えていました。またテニスのみならず試験前になると成績の厳しい生徒を呼んで指導されていたこともあり、まさに教育は愛であることを実践されてきました。

最後にお会いしたのは今年の3月末日で、「何か困ったことがあったらいつでも連絡して」と大変にうれしい言葉をいただきました。先生も私みたいな者では心配であったのでしよう。今でも先生はいつでもコート横の様子をご覧になっていると信じています。これからも先生が築き上げてきました伝統あるテニス部をしっかり守っていききたいと思っています。本当に今までありがとうございました。



でありがとうございました。先生のご恩に心から感謝するとともにご冥福をお祈りいたします。

●教育実習を終えて●

教壇実習の初め、私は「良い授業をしよう」とばかり思っていました。そのような意識で行った授業はどこか一方通行で、生徒の記憶に残らないことに気付きました。それ以降、私の意識は「伝わる授業をしよう」という方向に変わりました。学年、生徒の実態に応じた発問を考え、双方向のコミュニケーションを大切にしました。その交流の中で生徒の成長をたくさん見ることができ、また自分も3週間で大大きく成長できたように思います。

清水 礼実

実習を終えて非常に良い経験をさせていたのだと思います。人に教えるというところが、こんなに難しいことなのか、自分が伝えたいことが伝わらない難しさなど様々な苦悩があった中でも、指導教諭をはじめ、多くの教諭に助けをいただき、3週間の実習を終えることが出来ました。また、クラスでもすぐに馴染むことができ、生徒の純粋さを感じる事が出来ました。この経験を今後の人生でいかしていきたいと思えます。富山 剛史

山田 和昭

高等部出身の私にとって、中学校での実習は未知の世界であり正直不安で一杯であった。しかし、そこにも脈々と受け継がれている獨協イズムがあった。3週間は睡眠もほとんど取れないハードな日々であったが、生徒たちの優しさ、人懐っこさに幾度となく励まされ、最終日には実習生全員が涙していた。やっぱりこの学校は素晴らしい！そんな事を改めて実感できる機会でもあった。ステキな後輩達と諸先生方に改めて感謝したい。

五味 潤



退職教員より

お世話になった皆さまへ



今春三月、私は二十七年間在職しました獨協埼玉中学高等学校を退職いたしました。

七年となりましたが、その最後の学校がこの獨協埼玉となったことをとても誇りに思っています。前任校を十年勤めてきましたが、やはり本校の教師生活が一番印象的でした。クラス担任、生活指導、進路指導、国際交流委員会などの校務分掌に携わり、生徒と話す機会が多かったことが、貴重な経験となりました。獨協の生徒は他校と比べ、良い意味での個性をもっています。その一人一人がもつかけがえのない個性を大切にしてほしいと思います。

私はしばらくの間は溜まった本を読んだりあちこち歩き回ったりと、ゆつくり充電を図るつもりです。また趣味である絵を描き続けたいと思っています。最後に、私の絵に対する考え方、生き方に共通する俳優の片岡鶴太郎の言葉を紹介いたします。

「ぼくという存在は、カマキリや花や魚たちと同次元で生かされている。人間は思いあがっちゃいけないんだ。今生をみんな一緒につながったものとして生きている。そんな気持ちで、絵を描かせてもらっています」

自分の命と同じ比重で、自然界の親しい生命に向かい合うビューアで優しい情熱、いとおしさがあらわれた言葉である。私も自然に対する謙虚な気持ちを大切に、第二の人生を生きていきたいと思う。



中野 英之

嗟嘆天皇が「子子子子子子子子子子」を何と読むか謎かけをして答えたという小野

篁の墓地近くを車で走っていたときのこと。赤信号で停車中の春日部ナンバーの車を見て、獨協埼玉で過ごした6年間が走馬灯のように思い出されました。

昔から人付き合いが下手で、よく言えば朴訥、悪く言えば偏屈と言われてきた私は、周囲から誤解をされることも多く、自身を理解してもらえないうまの年月がかかるのが常でした。いつの日か「無理をして自分を理解してもらわなくてもいいや」と開き直る自分がありました。獨玉を離れるとき、私自身を理解しようとしてくれた生徒や先生方、卒業生がいかに多かったことか。獨玉を離れるときに、このことに気づきました。自分をさらけ出すことが苦手であった事を恥じたとともに、私にできることはまだまだたくさんあったなあという自責の念に駆られました。獨玉には感謝の気持ちで一杯です。

獨玉に流れている雰囲気は一言で言えば「優しさ」といっていいでしょう。冬の寒い日、顧問をしていた水泳部員と一緒にマラソンコースを一緒に走っていたとき、遠く関東山地に沈むコタツ色の夕日に心温かくなったことが何度もありました。ホッカイロや白金カイロにはない、体の芯を暖めてくれる、そんなコタツ色の暖かさに生徒、教職員、卒業生が包まれているのです。そんな獨玉の良さをいつまでも大切にしたいと思えます。

曾野綾子の「人びとの中の私」という本に「穴掘りの出来ない人間は人間ではない。今の学校教育ではなぜ穴掘りをさせないのか」という一節があります。これに

触発されて、大学の私の講義で、学生に穴掘りをさせました。穴掘りは思いのほか大変で、男子大学生3人がかりでも1時間半で2m弱の穴しか掘れませんが、深い穴を掘ろうとするとどうしても横に穴を掘りださるを得ないことに学生は気づきます。在校生の皆さんには、いろいろなことに広く興味を持って欲しいと思いますが、これぞというものが見つかったら、一つのことを深く掘り下げていくことに専念して欲しいです。一つの専門を深く極めていくと自然と専門性の幅も視野も広がっていきます。人生は穴掘りと同じです。

退職された先生との思い出

松本先生、板橋先生との思い出

矢口 純夫

「これ、どう」「絵を描くと集中できて」と言いながら、色鉛筆で描かれた作品を見せてくれた。絵の一枚一枚について語る彼の言葉は楽しく話が合った。スツと伸びた竹林の青、遠くまで続く地平線の紫、モディリアーニの模写、いづれも、優しい彼の人が柄が感じられる色彩の絵だった。残念なことに、松本先生は病を得て退職された。

昔、神父が経営する新宿のバーに、彼と一緒にいた。フランスから来日したこの神父。遠藤周作の小説に登場する有名な人もあった。虚栄の不夜城で我々は苦悩する青春の痛みを、共に語り明かした。

どこにでも愛車でゴ。教研集会にも、板橋先生は車でやってきた。九州でも、北海道でも、彼はかなりの車好きである。私が獨協に来て間もない頃、黄葉舞い散る晩

秋の雑魚川林道を夜通しで、突っ走ったのを思い出した。勿論彼の愛車で。獨協埼玉高校でこの二人の同僚が教育と向き合ったのは、この学校の草創期だった。周囲には、また水田が多く残っていた。水田ではウシ蛙が「バオーウ、バオーウ」と破れたような声をあげていた。我々には、何か未来への大きな期待感を抱かせる季節でもあった。あの時から、ほぼ三十年が過ぎ去った。

中野先生との思い出

堀口 千秋

中野先生と最初にお会いしたのは平成14年の夏、教員採用試験の模擬授業でした。当初からインパクトの強い表情、話し方で参加していた先生方からは終始和やかな笑い声が絶えませんでした。当時、北海道にお住まいだった中野先生はモーターで公転する太陽系の模型を持参されていたのですが、すべて自家製であり、驚かされたことを覚えています。しかも、その模型を持って飛行機に乗る際、金属探知機に引っかかり、彼特有の挙動不審な表情から中々開放してもらえなかったというエピソードは語り草になっています。

中学の担任に就いた当初は彼の腰の低さから生徒達が言うことを聞かない場面もあり、かなり苦労したこともありましたが、その後忙しい業務の合間に校庭の片隅で甜菜（てんさい）を栽培し始め、バイオエタノールの実験を行ない、その業績も含めて京都教育大学に招かれました。本校や教科にとつて中野先生を失うことは大きな痛手ではありますが、より大きな視点に立ち、素晴らしい理科教員を育てていただけたことを期待しています。

平成20年10月18日、第5期生のホームカミングデーが実施されました。当日は学年主任であった根岸先生をはじめ、依田先生、佐藤先生、三国先生、須藤先生、そして退職された加倉井先生、太田先生にご出席いただき、卒業生38名とともに懐かしく、そして楽しい時間を共有しました。1次会ではスライドショーで根岸先生秘蔵の写真を流したり、挨拶では当時の秘話やエピソードなどを生徒・教員それぞれの立場から披露するなど盛り上がりを見せました。その後、有志での2次会・3次会では日付けが変わろうとするまでせんげん台界限でまさに「あの頃」の間柄に戻り、

そして「またこのような集まりを…」という合言葉(?)で散会しました。

開催にあたり、実行委員長を務めてくださった都築能男さんをはじめ、当日早くから集まり、設営や運営をお手伝いくださった方々、そしてご参加くださった先生方・同窓生の方々に感謝申し上げます。そして、今回残念ながら参加できなかった5期生の皆様、是非また集まりましょう。



【収支報告】

(収入)	1次会	¥76,000 (¥2,000×38名)
	2次会	¥8,500 (残金)
	計	¥84,500……①
(支出)	飲食費	¥24,892
	郵送費	¥18,390
	写真代	¥7,245
	計	¥50,527……②
(残金)	①-②	¥33,973……第6期生のホームカミングデーに寄付させていただきます。

40歳 になったら学校へ行こう! ～6期生ホームカミングデーのお知らせ～

6期生のみなさん、卒業から22年が経ち、いよいよ我々の学年の同窓会の年がやってきました。

中学校が建ち、校長先生も5代目となり、ジャージや制服も新しくなり…あの頃とは獨玉も大きく変わりましたが、人生の節目となる40歳に母校を訪ねてみませんか?

皆さんのご参加を今や退職されてしまった先生方も心待ちにしております。

連絡先: kokubo@ff.ij4u.or.jp

実行委員: 小久保博史 (3年7組) 宮下 綾子 (3年8組)
吉村(小林)真由美 (3年7組) 芝(中島)みはる (3年1組)
佐川 洋之 (3年8組)



日時●2009年10月3日(土)
一次会●14:00～
獨協埼玉中学高等学校 中学棟
小ホール
二次会●19:00～
せんげん台駅周辺のお店で懇親会
※もちろん、お子様連れの参加もOKです



今年も、蛙鳴祭の一般公開は、
ありません。
詳細は、高校のホームページを
ご覧ください。

中学入試

- ◆入試 第一回 1月12日(火)
第二回 1月18日(月)
第三回 2月 2日(火)
- ※第三回入試は本校と東京会場で入試を実施します。
- ◆学校説明会
第一回 9月27日(日) 10:00~
第二回 10月25日(日) 10:00~
第三回 11月22日(日) 10:00~
第四回 12月12日(日) 14:00~
- ◆募集 男女160名

高校入試

- ◆入試 第一回 1月22日(金)
第二回 1月23日(土)
- ◆学校説明会
第一回 9月27日(日) 14:00~
第二回 10月25日(日) 14:00~
第三回 11月22日(日) 14:00~
- ◆募集 男女160名

入試



五十嵐 玄 (21)	大山みどり (20)	山口 麻里 (20)	宗像さやか (19)	村上 恵理 (19)	植原 浩美 (18)	坂本 育美 (18)	関 淳一郎 (18)	佐藤 允 (17)	仲田 英起 (17)	深瀬 和之 (16)	永井 穂 (16)	小黒 清貴 (16)	竹内 友洋 (13)	櫻井 広仁 (13)	金久保佳代 (12)	岡崎 陽子 (10)	川島 信也 (9)	井上佐友子 (8)	瀬戸てるみ (8)	小久保博文 (6)	都築 能男 (5)	森脇 淳 (5)	橋本 行正 (4)	桑原 裕子 (4)	桑島 優紀 (3)	小野 岳二 (2)	増田 浩一 (2)	杉崎 良樹 (1)	片桐 信信 (1)
高橋 知美 (27)	木本 恒平 (27)	尾堤 智 (27)	萩野 亮 (27)	榎本 祐希 (27)	市原 泉 (27)	池田 翔 (27)	安藤 慶 (27)	勝股 修平 (26)	夢川 彩子 (26)	岡野沙也花 (26)	武内 保香 (26)	正岡 正樹 (26)	大石さやか (26)	山田敬一郎 (26)	吉田 美葉 (26)	根本 明子 (25)	高橋 睦美 (25)	金本 幸美 (25)	井上 大史 (25)	須藤 啓 (24)	森 歩美 (23)	岡部沙友里 (23)	安保佳代子 (23)	高崎 葉月 (22)	佐藤 唯 (22)	村上まどか (22)	加藤 友紀 (22)	丸川 伶子 (21)	

幹事	理事	事務局長	事務局	会計監査	会 計	副 会 長	会 長		
高田 晶子 (10)	小平 茂 (5)	高田 晶子 (10)	有光 眞盛 (20)	友野 行晴 (1)	梨本 佳世 (19)	成瀬 博文 (10)	酒井 直樹 (7)	永島 健次 (3)	玉山 栄一 (1)

同窓会役員人事紹介

(括弧内数字は卒業期)

同窓会名簿の更新について

同窓会名簿の更新につきましては、現在、幹事会において検討中ではありますが、個人情報保護の観点から、具体的な更新日時を決定しておりません。あらかじめご了承ください。

同窓会からの依頼

- ①同窓会運営に関するご意見がありましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願ひします。
- ②同窓生で同窓会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいましたら、FAX・メール等で事務局まで情報をお寄せ下さい。後で同窓会会報等を郵送いたします。ご協力よろしくお願ひいたします。
- ③住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。
- ④同窓会は、同窓会活動を遂行する上で取得させていただいた各種の個人情報を通じて、誠に保護し、会報、同窓会が主催協力する行事等の開催案内の送付、学校で保有する卒業生データベースの補完のための情報提供に、これらの情報を利用します。※なお、情報の提供に同意されない方は、事務局まで届け出ください。

卒業生へのお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願ひいたします。※既にお振込みいただいた方には添付用紙は封入されておりません。